



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

平成29年
1月20日
第5号

新年明けましておめでとうございます。市教育委員会では、今年も「市教委だより」を発行し、学校の魅力あふれる取組や関連情報を掲載していきます。「市教委だより」が先生方の良い刺激になったり、各学校の取組の活性化につながったりすることを期待しています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



酉年!!今年の抱負 ～チャレンジ はつかいち～

廿日市市では、「市民一人ひとりが幸せに暮らせるまちづくり」を基本理念とし、「挑戦!豊かさ活力あるまち はつかいち」をめざす将来像とした、「第6次総合計画」を今年度からスタートさせたところです。これにより、市民だけでなく、働く人、訪れる人の視点も尊重し、新たな施策の展開や、人・ものが活発に動くことで活力が創出できるまちとなるように、あらゆる分野で果敢に「挑戦」しています。



そのような中だから、教育分野こそチャレンジしていきたいと思えます。

古くから「教育は未来への先行投資」と言われます。急激な速さで変化をしている社会の中で、我々教育に携わる者に、新たなことに挑戦し続ける姿勢がなければ、子どもたちや、この社会の未来を繋げられないのではないのでしょうか。

本年は、廿日市市に勤務されている900名ばかりの教職員のみなさんと、より一層、一緒にチャレンジしていける年にしていきたいと思えます。

通級指導教室をご存知ですか? ～一人一人のニーズに応じた支援をめざして～

通級による指導とは、学校の通常学級に在籍している比較的軽度の障がいのある児童生徒に対して、主として各教科等の指導を通常学級で行いながら、**当該児童生徒の障がいに応じた特別の指導を特別の指導の場**（通級指導教室）で行う教育形態です。

どのような指導を行っているのか、紹介します。

《具体的な指導例①》

【児童の課題】周りの空気を読むこと、相手の立場に立って考えることが難しい。気持ちが不安定になり、暴力を振ることがある。

【指導内容】絵や吹き出しを使い、自分の会話や感情を書き出す。先生と対話しながら、状況を理解し、相手の言動の理由を気付かせる。



《具体的な指導例②》

【児童の課題】ラ行の発音が不明瞭。話すことに抵抗がある。

【指導内容】授業のはじめにフリートークの時間を設ける。舌を動かす運動や苦手な音を含む単語や短文の構音練習を行う。

今年度、**大野西小学校 新谷典子教諭**は県の専門性向上事業による研修を受講しています。左の事例は、新谷教諭による実践事例の一部です。

H28 通級指導教室設置校

- 廿日市小学校
- 大野東小学校
- 大野西小学校

※廿日市小学校の通級指導教室は、佐方小学校の児童も受入対象となっています。

通級による指導の対象となる障がい

- 視覚障害
- 聴覚障害
- 肢体不自由
- 病弱・身体虚弱
- 言語障害
- 自閉症・情緒障害
- LD（学習障害）
- ADHD（注意欠陥多動性障害）



このように、児童の障がいによる学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とした学習を行っています。通級による指導の標準授業時数は、障がいに応じて年間10時間から280時間までと規定されていますが、入級希望者が多いことから、本市ではいずれの学校も週1時間程度の個別指導または少人数指導となっています。

廿日市市では、今年度、大野東小学校に通級指導教室を新設しました。また、来年度は、平良小学校への新設を予定しています。将来的には、すべての小学校の対象児童が通級による指導を受けることができるようにします。中学校についても、ニーズに応じて、今後検討していきます。

本物に触れる！～スクールギャラリー～

廿日市市美術協会との連携事業として、地元の方が製作した「絵」や「書」を学校に展示し、豊かな情操を育む「スクールギャラリー」を開催しています。

11月は吉和小学校と地御前小学校、12月は津田小学校と大野西小学校にて、廿日市美術協会の方々の作品が展示されました。

開催期間には、吉和小学校と地御前小学校で出前授業が実施され、絵画を鑑賞する際のポイントや具体的な技法を指導していただきました。児童は、優れた美術作品の魅力と、それらを創り出す技術の巧みさに感嘆の声をあげていました。

1月からは阿品台東小学校で開催しています。今後も、児童生徒が「本物」に触れる機会をつくっていききたいと思えます。



生涯に通じる学習 ～がん教育～

文部科学省委託事業「がんの教育」支援事業の一環として、平成28年11月9日(水)に、阿品台中学校体育館で、JA広島総合病院消化器外科化学療法室長で、医学博士でもある今村祐司先生による講演が開催されました。阿品台中学校では、今年度道徳、学級活動での学習を通して、日本人の三大疾病の一つである「がん」について科学的な理解を基に、生涯に渡って「がん」と向き合っていく態度の育成を目指しています。

この日の講演では、導入でアニメーション用いたり、実際にがん細胞が増殖する過程を画像で理解させたりするなど、中学生が抵抗感なく、がん治療の現状を理解できるような工夫がされていました。

阿品台中学校の生徒たちも、熱心にメモを取りながら講話を聴き、納得したり共感したりできる部分では、うなずきながら理解を深めていました。



日本の文化を体感！～金剛寺小で「能楽公演」～

平成28年12月5日(月)、金剛寺小学校で文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」の一環として「能楽公演」が行われ、全学年で日本の文化を体感しました。

能楽師21人により狂言と能が披露されました。狂言は^{かきやまぶし}「柿山伏」、能は^{あだちがほら}「安達原」です。事前のワークショップで謡や楽器を体験し、当日を迎えました。能楽師の表情やしぐさが楽しくまた迫力があり、能楽の世界に魅了されていました。



演目後のワークショップでは、狂言の所作も体験しました。日本の伝統芸能に触れることができました。

女の方は、角度で表情が変わった。表現がすごい。意味の分からない言葉もあったけど、表情や言い方が上手だから、話が分かった。勉強になった。(児童の感想から)



生徒指導 スキルアップ! ⑤

「組織的な対応」とは？

生徒指導を語るときに「組織的に」という言葉をよく使います。とても重要な言葉ですが、具体的な行動が見えにくいこともあります。



組織的な対応とは、「関係者が話し合い、対応チームを組織し、指導方針を共通理解した上で、役割分担し、対応すること(生徒指導提要 P174より抜粋)」です。

このように「組織的に」という言葉の中には、「複数で事実確認をする」「情報共有する」「複数で協議する」「指導方針を共有する」等様々な行動が含まれています。

大切なことは、

校長のリーダーシップの下に**指導方針を定め、関係者が指導方針を理解した上で役割分担し、自らの専門性を生かして役割を遂行すること**

👉 スキルアップポイント!

です。

子どもや家庭をめぐる問題は複雑化・多様化してきています。一人の先生の知識や経験だけでは、正しくアセスメントができず、また対応できないことも考えられます。

だからこそ、これからの生徒指導は、今まで以上に先生方一人一人の専門性を生かし、役割分担して、組織的に対応することがとても重要になってきているのです。

「チーム〇〇学校」として、組織的に取り組んでいきましょう!